



様式第 4 号（第 7 条関係）

令和 8 年 8 月 2 5 日

東かがわ市議会議長
工 藤 正 和 様

東かがわ市議会議員
（会派・個人・その他）
氏名 渡 邊 堅 次

行政視察等報告書

1	日 時	令和 8 年 7 月 3 1 日	
2	参加者	渡邊 堅次、 小松 千樹	
3	目的等	内 容	場 所
		地域未来ビジョン創造セミナー	東京都中央区 （ビジョンセンター東京京橋）
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照	
6	費 用	3 7 , 8 9 0 円	

※領収書（交通費・宿泊費の明細が分かるもの）、研修資料を添付してください。

研修報告書

令和8年度「地域未来ビジョン創造セミナー」

【特別講演】演題「プロスポーツによる地方創生」

講師 静岡ブルーレヴズ株式会社代表取締役社長
一般社団法人静岡県ラグビーフットボール協会理事
山谷 拓志 氏

スポーツそのものの価値は、分かりやすく「する」と「みる」の2つに分けて考えられる。

「する」スポーツは税金を使う部分であり、教育の一環であることから、これまでの日本における、「スポーツ政策」の中心であった。

日本が遅れているのは、「みる」価値であり、「みる」価値は、スポーツを「する」こととは全く異なる性質であり、エンターテインメントであり、その価値をどう生かすか、それをどのように経済として、換金化をして市場規模を拡大再生産していくかということが、日本には1番欠けている視点ではないか。

行政や自治体には、プロスポーツチームというコンテンツと、その箱（スタジアム）が一体となったものを、もっと高く評価していく必要がある。スポーツチームは簡単には作れない。歴史や史跡と同様に、ある人がいて、そこに人やお金が集まり、様々なタイミングや偶然が重ならないとできない。税金を掛けて施設はできても、チームはできない。もちろん強いチーム、弱いチームがあるが、地元自治体の皆さんが、地元のスポーツチームを有効活用しつつ、そのコンテンツがより盛り上がるようなサポートが必要である。

【専門講演】演題「最近の国際情勢と日本の安全保障」

講師 東京大学先端科学技術研究センター准教授
小泉 悠 氏

わずか3日で終わると予想されたウクライナ戦争は、開戦からもう4年半を迎える。なぜここまで長期化したのか。どれだけの人が死んだのか。米トランプ政権成立で激変した世界秩序の中、日本はいかにふるまうべきか。21世紀における戦争を私たちはどう考えたらいいのか。ロシア情報の第一人者として悲惨な実態を伝え、自身もロシア無期限入国禁止処分を受けながら、詳細なデータとともに戦争の本質に迫る経験や信念まで込められた講演であった。

研修成果

特別講演では、本市におけるスポーツによる地域創生のチャンスは、本市に関係のあるプロバスケットボール、フェンシング、バレーボールなどのアスリートを活用した取組であったと感じた。しかしそのために高額な用具を購入したが短期間しか使用せず無駄になった経緯がある。中途半端な考えではプロスポーツでの地域創生は難しいと感じた。

また、具体的な地域連携プロジェクトや、スポーツ経営における詳しい事例の説明もあり参考になった。

専門講演では、ウクライナ戦争は双方にやめる動機や即座に戦闘不能になる理由もなく、軍事的な決着はつきにくいため長期化する可能性が高いと分析していた。双方が妥協しにくい構造や、領土問題で割り切れない背景があるため「冷戦のような不完全な停戦・長期化」が現実的な終結になると指摘していた。これからの日本の安全保障について、日米同盟の過度な依存からの脱却と自律的な防衛力の強化が必要と説いていた。小泉悠氏の講演を受け、自分の議席を守るのではなく自分の意見を強く訴える政治家がこれからの日本には必要と改めて感じた研修であった。